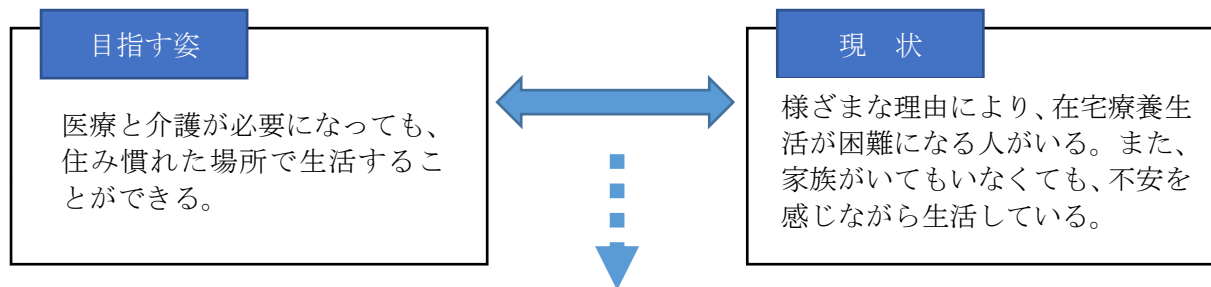


【日常の療養支援】



【なぜ在宅療養生活が困難になってしまうのか考える】

本人・家族・地域に関すること	専門職・医療機関等に関すること	その他のこと
・ 独居世帯が増えている。同居家族がいても高齢だったり、子世代も就労していたりする。 ・ 家族のストレス、疲労 ・ ADLや認知機能の低下 ・ 夜間休日に問題が発生しないか不安である。 ・ 医療や介護を拒む人がある。意思を持って拒否する人、認知症、ひきこもり、サービスへの理解不足など背景は様々まである。 ・ 本人を説得する家族も疲弊する。 ・ 家族が亡くなると孤立しがちである。 ・ 受診の内容を理解してケアマネジャー等へ伝えることが困難な人がある。	・ 提供体制が充足していないため、希望のサービスや必要とされるリハビリが受けられないことがある。 ・ 往診等に対応できる医療機関が少ない。 ・ 新型コロナ陽性者/濃厚接触者のサービス再開時期が事業所によって異なる。 ・ サービス導入が遅いことがある。 ・ 人材不足	

【取り組むべき課題は何かを考える】

緊急性	重要性	取り組みやすさ	課題
☑	☑	☐	介護を担う家族の身体的精神的ストレスを軽減する必要がある。
☑	☑	☐	夜間休日の不安が解消できるようにする。
☑	☑	☐	在宅医・リハビリ職・訪問介護等の供給不足をカバーする方策を見つけて取り組む。
☐	☐	☐	
☐	☐	☐	
☐	☐	☐	